

議員と話す出前トーク報告書

開催日時	令和7年5月20日(月) 午前10時 ~ 午前11時10分
相手方	松尾住民自治協議会
開催場所	松尾地区コミュニティセンター
出席議員	広報広聴委員 東村 佳子 ① 殿村 峰代 ② 小川 朋子 ③ 小野 建二 ④ 野呂 一平 ⑤ _____ ⑥ _____
	司会進行者 野呂 一平
	報告者 東村 佳子
	記録者 東村 佳子
参加人数	住民15名、地域まるごと相談室3名
意見・要望等 主な質疑応答	別紙のとおり。
報告者の所感	別紙のとおり。

松阪市議会議長 中島 清晴 様

令和 7 年 5 月 2 8 日

議会報告会実施要綱第8条の規定により提出します。

報告者 東村 佳子 _____

意見交換

【テーマ：高齢者から子どもまでイキイキと暮らせる町づくりを目指して―第1回ふれあい学級―】

垣本センター長からテーマなど概要説明後、議員自己紹介のち普段思っていることを話していただく

*資料：第1回ふれあい学級レジュメ

―健康・福祉・公共交通の利用促進という内容で、議員と地域の方々が考えておられる課題や想いをお話ししてください―

◎健康/休日・夜間診療体制について、

・市民病院のこと

済生会の管理になったら、かかりつけ医の診療はどのように変わるのか

→しばらくは今のまま2030年をめぐりに回復期の病院に徐々に変わっていく
すぐになるわけではなく、少しずつ済生会に急性期の患者さんが移っていく
かかっている先生からどのようにかわっていくか話があるので心配いらない
突然変わってわけがわからなくなるような事がないようにご理解いただける
説明が行き届くように議会からも進言していく

・休日夜間診療のこと

年末年始休日診療を断られた人はどうなったのか

救急体制の充実に力を入れるべき

→6月7日から土曜日の深夜帯22時半～翌朝の診療を休止

深夜帯の患者は毎日1人か2人でドクターの働き方改革もあり、休止とした
深夜帯には119番や松阪地区救急相談ダイヤルなどの利用をお願いする
意見や事実を示して改善に持っていくのが議員の役目だと思う

歯科診療休日昼間毎日10人

年末年始休日診療日中毎日200人、夜間50人、深夜帯10人

安心安全の為に休日診療の中身の充実、救急医療をどうしていくのか、不安、
心配、問題があれば聞かせて欲しい、反映に努める

・夜間、深夜帯に救急車がひっ迫するのでは

→安心の体制に税金を使うべき、命を守る協議をすべきと環境福祉委員会に持ち帰る

・済生会に資本が市から入るのか

→建物は市が管理するが、中の運営は済生会がやることになる
ある程度の資金は市からも出すが基本的には済生会が運営する

・特定検診はこれからもできるのか

→特に変わることがないが、指定管理後はわからないので不便になるようだったらご意見を頂戴したい

議会は市に意見し、済生会に伝えることができるので声を聞かせて欲しい

◎福祉/少子高齢化の中、福祉施設の充実状況について

・福祉施設の充実状況は

→近くの介護施設はこもれび、スマイル、グレースホーム、スマイルハートが西野町、立野町、岡本町にある

働き手の不足、担い手不足はこれからどんどん進んでいく

介護施設も2050年に向かって減っていく

・まるごと相談室は令和5年12月開設

「うきさと、大河内、松尾地区」からの相談件数はのべ250件

高齢者の相談、介護の相談、精神疾患、ひきこもりが増加している

交通の便の時間帯が悪い、バス停まで遠い

松尾地区はデマンドタクシーがあるが大河内地区は車がないと生活できない

3月導入の見守り兼移動販売の地域拡大を目指す

救急車を呼んだあと病院から帰ってこれないことの改善が必要

生活上の不便さの改善、市政にフィードバックの必要がある

→まるごと相談室は悩みの解決ではなく、持っている情報や知識をみなさんの悩みごとを解決してくれるところにつなぐこと、持っていない情報や対応できない事はみなさんと作っていくこと

介護保険は使うと保険料は上がるしくみ

声をあげること、届けることが大事

◎鈴の音バス/交通事故防止につなげる交通網の充実について

・松尾地区のデマンドタクシー

個人が合わせなくてはいけないのが不便を感じる

運用方法の効率上げること、途中下車、乗車ができる、走っている途中でも近くで乗り降りできるとかAIを活用するとか工夫があるとよい

・鈴の音バスの幸公民館前を通る路線はあまり乗客が乗ってないように思う。バス路線を中部台公園まで延伸すればもっと利用客が増えるのではないかと
平成台のバス路線はこれから先必要になると声をあげると松尾地区にも通る

のではないかと、三重交通の出資者の声として届けてほしい
→鈴の音バスの路線は住民の声やアンケートが元になる

・三重交通のハイエースの乗り降りは利用者に寄り添う姿勢が大切
→皆さんの使いやすさの声を上げて欲しい

◎所 感

健康・福祉・公共交通に関するさまざまなご意見やご不安を直接うかがい、改めて「暮らしに寄り添う市政の在り方」について考えるよい機会となった。

特に、市民病院の今後の不安や年末年始休日夜間診療体制と救急車の利用方法、コミュニティ交通などの移動手段の不便さについては、多くの方が関心を持っておられ、安心して暮らせる地域づくりには、引き続き丁寧な情報提供と住民の皆さんの声に耳を傾け、寄り添うことが必要だと感じた。

こうした場を通して、住民の声を議会に届け、少しでも制度や仕組みに反映させていくことが私たち議員の役割だと改めて実感した。

また、机の並べ方や座席の配置など、女性の参加者も話しやすい雰囲気づくりにも、こちらから積極的に工夫していく必要があると感じた。

これからも、地域の皆さんと顔を合わせて声を聴き、一緒に考え、未来につながるまちづくりを進めていけるよう取り組んでいきたい。

議員と話す出前トークの様子

